

《履修上の留意事項》面接授業と遠隔授業の併用実施

《担当者名》 佐々木祐二 中村宅雄 大内みふか 鈴木伸弥

【概要】

物理療法は物理的なエネルギーを外部から人体に適応し、疼痛の緩和、循環の改善、リラクゼーションの目的で使用する治療法である。授業では、各療法の原理、生体に与える生理学的作用、実施上の適応と禁忌、物理療法プログラムの実際を理解する。

【学習目標】

理学療法において運動療法とともに治療手段の両輪をなす「物理療法」を理解するために、各種物理的エネルギーが生体に及ぼす生理学的作用、リスク管理について学び、説明できる。また、基本的な物理療法機器を操作、実践できる。

【一般目標】

1. リスク管理の重要性を理解することができる。
2. 各種物理的エネルギーの特徴・原理を理解することができる。
3. 各種物理的エネルギーが生体に及ぼす生理学的作用を理解することができる。
4. 各種物理療法の治療目的および適応・禁忌、注意点を理解することができる。

【行動目標】

1. 各種物理的エネルギーの特徴・原理を説明することができる。
2. 各種物理的エネルギーが生体に及ぼす生理学的作用を説明することができる。
3. 各種物理療法の治療目的および適応・禁忌、注意点を説明することができる。
4. 各種物理療法機器の使用方法を理解したうえで、実施することができる。

【学習内容】

回	テーマ	授業内容および学習課題	担当者
1	物理療法総論・リスク管理	物理療法の歴史と今後の課題・展望 物理療法におけるリスク管理 <キーワード> 物理療法、物理療法の歴史、リスク管理	佐々木祐二
2 ) 6	温熱療法	温熱療法の定義・分類 温熱療法の基礎と生理学的作用 ホットパック パラフィン 超音波療法 極超短波療法 <キーワード> 温熱療法、熱力学、ホットパック、パラフィン、超音波、極超短波	佐々木祐二
7 ) 8	寒冷療法	寒冷療法の定義・分類 寒冷療法の基礎と生理学的作用 寒冷療法の実際 <キーワード> 寒冷療法、アイスマッサージ、アイスパック、コールドパック、RICE処置	佐々木祐二
9 ) 10	水治療法	水治療法の定義・分類 水治療法の基礎と生理学的作用 各種水治療法の実際 <キーワード> 水治療法、渦流浴、気泡浴、交代浴、水中運動療法	佐々木祐二
11 ) 16	電気刺激療法	電気刺激療法の定義・分類 電気刺激療法の基礎と生理学的作用 神経筋電気刺激/治療的電気刺激 経皮的電気神経刺激(TENS) 機能的電気刺激(FES) バイオフィードバック 高電圧電気刺激(HVS)など <キーワード>	佐々木祐二

回	テーマ	授業内容および学習課題	担当者
		電気刺激療法、治療的電気刺激、機能的電気刺激、TENS、バイオフィードバック、電気診断	
17 ) 18	光線療法	光線療法の定義・分類 光線療法の基礎と生理学的作用 紫外線療法 赤外線療法 レーザー療法 <キーワード> 光線療法、波長、紫外線、赤外線、レーザー療法	佐々木祐二
19 ) 20	牽引療法	牽引療法の定義・分類 牽引療法の基礎と生理学的作用 頸椎牽引 骨盤牽引 <キーワード> 牽引療法、頸椎牽引、骨盤牽引	佐々木祐二
21 ) 22	マッサージ療法	マッサージ療法の定義・分類 マッサージ療法の基礎と生理学的作用 伝統的マッサージ 軟部組織モビライゼーション <キーワード> マッサージ療法、伝統的マッサージ、軟部組織モビライゼーション	佐々木祐二
23 ) 24	演習	水治療法（渦流浴・交代浴） 寒冷療法 温熱療法（極超短波）	佐々木祐二 大内みふか 鈴木伸弥 中村宅雄
25 ) 26	演習	温熱療法（ホットパック・パラフィン）	鈴木伸弥 中村宅雄 佐々木祐二 大内みふか
27 ) 28	演習	牽引療法（頸椎牽引・骨盤牽引） 温熱療法（超音波）	中村宅雄 佐々木祐二 大内みふか 鈴木伸弥
29 ) 30	演習	電気刺激療法・バイオフィードバック	大内みふか 佐々木祐二 中村宅雄 鈴木伸弥

#### 【評価方法】

定期試験 80%、小テスト 20%

定期試験 90%、実技レポート 10%

小テストは前回実施講義内容に関する確認テストであり、各週実施する。

定期試験に関しては、返却しないが、内容を確認に来ることを望む。

#### 【備考】

教科書：網本和 他 編 「標準理学療法学 専門分野 物理療法学 第4版」 医学書院 2013年

参考書：松澤 正 他 編 「物理療法学 改訂第2版」 金原出版 2012年

木村貞治 他 編 「物理療法学テキスト 改訂第2版」 南江堂 2013年

Michelle H.Cameron 著 「EBM物理療法 原著第4版」 医歯薬出版 2015年

濱出茂治 他 編 「テキスト物理療法学 基礎と臨床」 医歯薬出版 2016年

庄本康治 編 「エビデンスから身につける物理療法」 羊土社 2017年

吉田秀樹 編 「Crosslink理学療法学テキスト 物理療法学」 メディカルビュー社 2020年

その他：演習～演習については、4グループに分かれて実施する。それゆえ、実施する順序は異なる。  
グループ分けなどは講義開始後決定・案内する。

#### 【学習の準備】

予習：授業で扱うキーワードについて、教科書、参考書、関連図書、インターネットなどを利用し、調べておくこと（80分）。また、該当範囲をしっかりと読んで、理解しておくこと（80分）。  
復習：確認のための小テストを実施するので、教科書や配布資料、必要であればインターネットなどを利用し、学習を深めること。特に各ツールに対する生理学的作用や適応と禁忌はきちんと整理し、理解すること（160分）。

#### 【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

（DP4）リハビリテーション専門職として必要な科学的知識や技術を備え、心身に障害を有する人、障害の発生が予測される人、さらにはそれらの人々が営む生活に対して、地域包括ケアの視点から適切に対処できる実践的能力を身につけます。

#### 【実務経験】

佐々木祐二（理学療法士）  
中村宅雄（理学療法士）  
大内みるか（理学療法士）  
鈴木伸弥（理学療法士）

#### 【実務経験を活かした教育内容】

医療機関での理学療法士としての実務経験を通じて得た物理療法に関する知識・技術などを活用し、リスク管理を踏まえた実践的な講義および演習を行う。